

【引受保険会社】



〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

変額保険

グローバルミックス

四半期運用レポート

2016年1月～2016年3月

【利用する投資信託の委託会社】

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社



アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社は、マルチ・エキスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

特別勘定の運用方針について

| 基本資産 配分比率 | 運用方針 | 利用する投資信託 | |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|--------------------------|
| | | 投資信託名 | 委託会社 |
| 株式 50% | 日本国債をはじめとする債券及び日本・米国・欧州の株式に分散投資することにより、中長期での資産の安定的な成長をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。 基本資産配分は、株式50%程度、債券50%程度とします。 運用の決定にあたっては、収益性、安全性、流動性に配慮し、運用環境の動向に応じた資産配分を行います。 (特別勘定の運用は、アクサ生命保険株式会社 ALM & 特別勘定運用部が行います。) | アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) (適格機関投資家私募) | アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社 |
| | | アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B) (適格機関投資家私募) | |
| | | アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A) (適格機関投資家私募) | |
| | | アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A) (適格機関投資家私募) | |
| | | アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) (適格機関投資家私募) | |
| 債券 50% | | | |

※ 特別勘定の運用方針、利用する投資信託および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。

※ 特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

- ・ アクサ生命保険株式会社の「変額保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・ 当資料は、アクサ生命保険株式会社の「変額保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- ・ 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・ 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・ 商品内容の詳細については「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- ・ 当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

変額保険

特別勘定の四半期運用レポート (2016年1月～2016年3月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知ください。
- ・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境 [2016年1月～2016年3月]

【日本株式市場】

日本株式市場は、TOPIX(東証株価指数)が前期末比△12.93%下落の1,347.20ポイントで終了しました。
1月から2月中旬にかけて、中国経済への不安が高まったことなどから大幅に下落した後、日銀のマイナス金利導入が好感され上昇に転じましたが、その後、急激な円高に加えて、10年国債利回りがマイナスとなり、運用環境の悪化懸念から金融株が売られたことなどから、大幅反落しました。2月下旬以降は、原油価格の動向や各国の追加金融緩和を巡る思惑などから、小幅に揉み合いながら推移しました。
業種別(東証33業種)では、当四半期で上昇した業種はなく、日銀のマイナス金利政策による収益への悪影響が懸念された「銀行業」(前期末比△29.35%)が最も下落しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は、1月から2月中旬にかけて、中国株式の下落などを受けて大幅に下落した後、原油相場の反発などで上昇する場面もありましたが、米国の先行きの景気減速が懸念されたことなどから再び下落しました。2月下旬以降は、先行きの米国での利上げペースが緩やかとの見方が強まったことなどから大幅に上昇しました。NYダウは、前期末比+1.49%上昇の17,685.09ドルで終了しました。
欧州株式市場は、1月から2月中旬にかけて、中国株式や原油価格の下落などから、大幅に下落した後、ECB(欧州中央銀行)総裁が追加金融緩和を示唆したことなどから上昇に転じましたが、独大手銀行が社債の利払いに窮する可能性が観測されたことなどから再び下落しました。2月下旬以降は、追加金融緩和観測などから上昇した後、ユーロ圏の堅調な経済指標の一方、ベルギーでのテロなどを材料に、小幅に揉み合う展開となりました。市場別騰落率は、英FT100は前期末比△1.08%下落、仏CAC40は同△5.43%下落、独DAXは同△7.24%下落となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、1月に日銀がマイナス金利導入を決定したことなどから、金利は急低下(価格は上昇)した後、欧米の金利上昇の影響を受けて小幅に上昇(価格は下落)する場面もありましたが、プラスの利回りを求めて超長期国債を買う動きが加速したことなどから、マイナス圏に突入して期を終えました。新発10年国債利回りは△0.050%となりました(前期末は0.270%)。
無担保コール翌日物金利は概ね0.0～0.1%近辺で推移していましたが、その後日銀が一部当座預金にマイナス金利を適用したことを受けて水準を切り下げ、概ね△0.02～0.01%近辺で推移しました。

【外国債券市場】

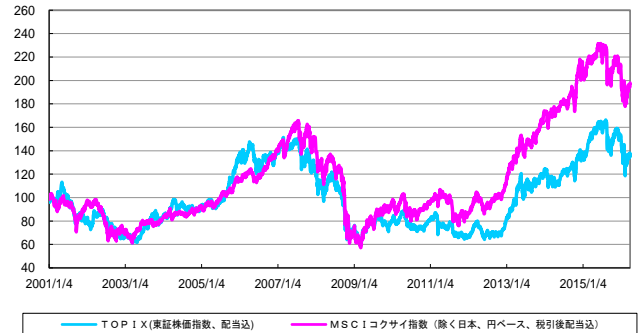
米国債券市場は、1月から2月中旬にかけて、米国や中国の景気感悪化で世界の景気減速が懸念されたことなどから、金利は大幅に低下(価格は上昇)しました。2月下旬以降は、米経済指標の良好な結果や、FRBによる利上げ観測などから上昇(価格は下落)した後、米国での利上げペースが緩やかになるとの見方が強まったことなどから低下基調で推移し、米10年国債利回りは1.769%となりました(前期末は2.269%)。
欧州債券市場は、1月から2月下旬にかけて、ECBによる追加金融緩和観測や英国のEU(欧州連合)離脱を問う国民投票への警戒感などから、金利は大幅に低下(価格は上昇)しました。3月は、ECBが追加利下げの可能性は低いとの考えを示したことなどから上昇(価格は下落)した後、米国金利に連れる形で低下しました。独10年国債利回りは0.153%となりました(前期末は0.629%)。
FRB(連準準備制度理事会)は、FF(フェデラル・ファンド)金利の誘導目標を据え置き、年0.25～0.50%を維持しました。ECB(欧州中央銀行)は政策金利を0.05%引き下げ、年0.00%としました。

【外国為替市場】

米ドル/円相場は、前期末比7円93銭円高ドル安の1ドル=112円68銭となりました。1月から2月中旬にかけて、中国経済への懸念や原油価格の下落などにより円高傾向となった後、日銀によるマイナス金利の導入が決定されたことなどから円安に転じましたが、米国での先行きの利上げペースが緩やかとの見方などを受けて、急激に円高が進行しました。2月下旬以降は、原油価格の動向や、各国の追加金融緩和を巡る思惑などから揉み合いで推移しました。
ユーロ/円相場は、前期末比4円07銭円高ユーロ安の1ユーロ=127円70銭となりました。1月から2月下旬にかけて、人民元の下落や原油価格の続落などから円高圧力が高まった後、日銀によるマイナス金利の導入が決定されたことなどから円安に転じましたが、欧州での信用不安の高まりなどから円高が進行しました。3月は、ECB総裁が追加利下げの可能性は低いとの考えを示したことなどから、揉み合いながらも円安基調で推移しました。

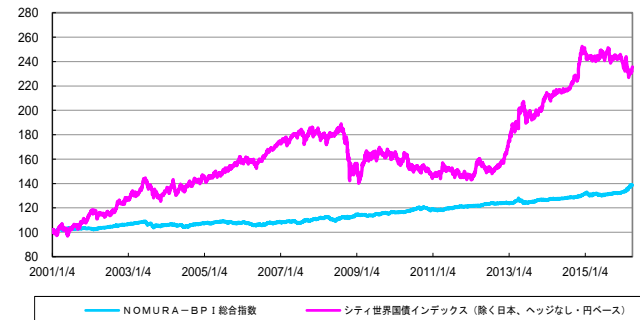
日本と外国の株式市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

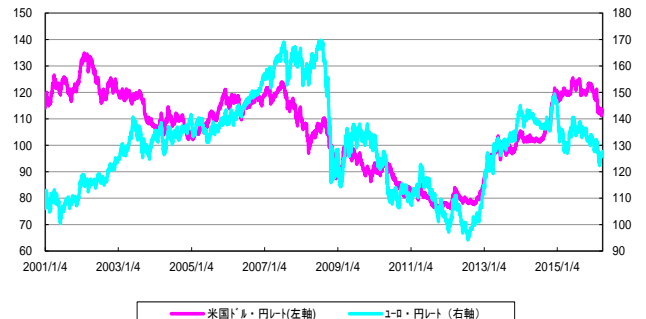


日本と外国の債券市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所: 株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

特別勘定の四半期運用レポート (2016年1月～2016年3月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用状況 [2016年3月 末日現在]

■特別勘定のINDEXの推移

※ 特別勘定のINDEXは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



| | 2016年3月末 | 2016年2月末 | 2016年1月末 | 2015年12月末 | 2015年11月末 | 2015年10月末 |
|--------|----------|----------|----------|-----------|-----------|-----------|
| INDEX | 1.151 | 1.125 | 1.145 | 1.191 | 1.202 | 1.194 |
| | 過去1ヵ月 | 過去3ヵ月 | 過去6ヵ月 | 過去1年 | 過去3年 | 設定来 |
| 騰落率(%) | 2.30 | ▲3.39 | 1.10 | ▲3.22 | 16.81 | 15.10 |

※ 特別勘定のINDEXは、2000年8月1日を1.00として計算しています。

※ 騰落率は、該当月の月末のINDEXに対する当月末のINDEXの変動率を表しています。

■特別勘定資産の内訳

| 項目 | 金額(千円) | 比率(%) |
|-----------------------------|------------|-------|
| 現預金・その他 | 1,854,102 | 4.3 |
| その他有価証券 | 41,419,615 | 95.7 |
| アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) | 4,311,669 | 10.0 |
| アクサ ローゼンバーグ・日本バリュウ株式ファンド(B) | 6,338,122 | 14.6 |
| アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A) | 6,725,485 | 15.5 |
| アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A) | 4,562,699 | 10.5 |
| アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) | 19,481,637 | 45.0 |
| 合計 | 43,273,718 | 100.0 |

※ 各特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。

※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

当期のINDEX騰落率等は上記をご参照願います。

資産配分に関しましては、基本資産配分を概ね維持しております。(株式部分は、日本株式25%、欧米株式25%の資産配分といたしました。)

今後も引き続き、運用方針に沿って運用を行う予定ですが、将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更されることがあります。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

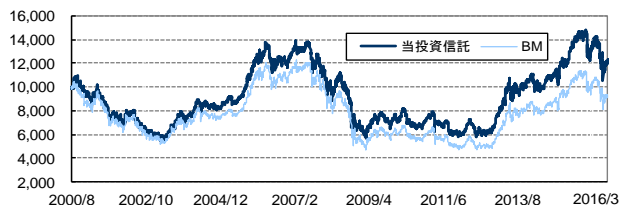
特別勘定の四半期運用レポート (2016年1月～2016年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) (適格機関投資家私募)の運用状況

[2016年3月 末日現在]

■ 当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2000年8月3日)の前日を10,000として指数化しています。

■ 当投資信託の騰落率

| | 過去1ヵ月 | 過去3ヵ月 | 過去6ヵ月 | 過去1年 | 過去3年 | 設定来 |
|------|-------|---------|--------|---------|--------|--------|
| 投資信託 | 5.23% | ▲12.56% | ▲4.29% | ▲11.05% | 35.04% | 19.79% |
| BM | 3.80% | ▲12.93% | ▲4.53% | ▲12.70% | 30.20% | ▲9.13% |
| 差 | 1.42% | 0.37% | 0.24% | 1.65% | 4.83% | 28.92% |

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年8月3日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)¹⁾です。

・ 比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

■ マザーファンド受益証券の詳細情報

○ 業種別構成比率

| 業種 | マザーファンド |
|----------|---------|
| 1 輸送用機器 | 10.36% |
| 2 電気機器 | 9.98% |
| 3 情報・通信業 | 9.83% |
| 4 小売業 | 8.78% |
| 5 銀行業 | 6.22% |
| 6 医薬品 | 6.03% |
| 7 卸売業 | 5.89% |
| 8 化学 | 5.09% |
| 9 その他業種 | 35.76% |
| 10 現金等 | 2.07% |
| 合計 | 100.00% |

○ 市場別構成比率

| 市場 | マザーファンド |
|--------------|---------|
| 1 東京証券取引所第一部 | 97.93% |
| 2 現金等 | 2.07% |
| 合計 | 100.00% |

○ 組入上位10銘柄

| 銘柄 | 業種 | マザーファンド |
|---------------------|--------|---------|
| 1 トヨタ自動車 | 輸送用機器 | 3.67% |
| 2 日本電信電話 | 情報・通信業 | 2.26% |
| 3 KDDI | 情報・通信業 | 2.23% |
| 4 三菱UFJフィナンシャル・グループ | 銀行業 | 1.88% |
| 5 日本たばこ産業 | 食料品 | 1.81% |
| 6 三井住友フィナンシャルグループ | 銀行業 | 1.63% |
| 7 みずほフィナンシャルグループ | 銀行業 | 1.41% |
| 8 ソフトバンクグループ | 情報・通信業 | 1.31% |
| 9 NTTドコモ | 情報・通信業 | 1.18% |
| 10 本田技研工業 | 輸送用機器 | 1.16% |
| 合計 | | 18.56% |
| 組入銘柄数 | | 302銘柄 |

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■ 当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比▲12.56%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)の騰落率は、前四半期末比▲12.93%となりました。当四半期の日本株式市場は、配当利回りの高い銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはプラスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた小売やサービスが上昇したことはプラスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた河西工業(7256)や三菱UFJフィナンシャル・グループ(8306)が下落したことはマイナスに寄与しましたが、多めに保有していた大崎電気工業(6644)やプレサンスコーポレーション(3254)が上昇したことはプラスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、ポートフォリオをベンチマークからの乖離が一定の範囲内に収まるよう構築することで、中・長期的な観点から安定的にベンチマークを上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・ 4ページ～8ページに記載されている「1～4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

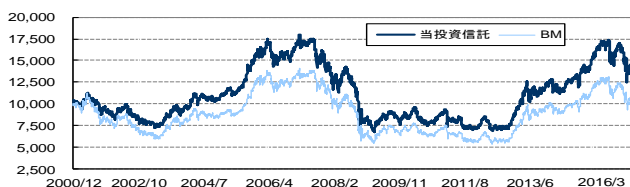
特別勘定の四半期運用レポート (2016年1月～2016年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B)〈適格機関投資家私募〉の運用状況

[2016年3月 末日現在]

■当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を10,000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

| | 過去1ヵ月 | 過去3ヵ月 | 過去6ヵ月 | 過去1年 | 過去3年 | 設定来 |
|------|-------|---------|--------|---------|--------|--------|
| 投資信託 | 5.30% | ▲12.66% | ▲3.55% | ▲8.37% | 37.34% | 43.05% |
| BM | 3.80% | ▲12.93% | ▲4.53% | ▲12.70% | 30.20% | 4.49% |
| 差 | 1.50% | 0.27% | 0.99% | 4.33% | 7.14% | 38.56% |

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)¹⁾です。

・ 比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

○業種別構成比率

| 業種 | マザーファンド |
|----------|---------|
| 1 電気機器 | 11.14% |
| 2 情報・通信業 | 10.38% |
| 3 小売業 | 10.30% |
| 4 輸送用機器 | 8.38% |
| 5 銀行業 | 7.26% |
| 6 化学 | 7.14% |
| 7 医薬品 | 6.75% |
| 8 卸売業 | 6.34% |
| 9 その他業種 | 30.00% |
| 10 現金等 | 2.32% |
| 合計 | 100.00% |

○市場別構成比率

| 市場 | マザーファンド |
|---------------|---------|
| 1 東京証券取引所第一部 | 94.60% |
| 2 その他の市場 | 1.40% |
| 3 ジャスダック証券取引所 | 1.24% |
| 4 東京証券取引所第二部 | 0.43% |
| 5 名古屋証券取引所第一部 | 0.01% |
| 6 現金等 | 2.32% |
| 合計 | 100.00% |

○組入上位10銘柄

| 銘柄 | 業種 | マザーファンド |
|---------------------|--------|---------|
| 1 トヨタ自動車 | 輸送用機器 | 3.42% |
| 2 日本電信電話 | 情報・通信業 | 2.68% |
| 3 三菱UFJフィナンシャル・グループ | 銀行業 | 2.66% |
| 4 日本たばこ産業 | 食料品 | 2.48% |
| 5 KDDI | 情報・通信業 | 2.38% |
| 6 三井住友フィナンシャルグループ | 銀行業 | 2.35% |
| 7 みずほフィナンシャルグループ | 銀行業 | 1.83% |
| 8 アステラス製薬 | 医薬品 | 1.80% |
| 9 日産自動車 | 輸送用機器 | 1.66% |
| 10 三菱電機 | 電気機器 | 1.62% |
| 合計 | | 22.89% |
| 組入銘柄数 | | 180銘柄 |

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比▲12.66%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)の騰落率は、前四半期末比▲12.93%となりました。当四半期の日本株式市場は、純資産利回りの高い銘柄が相対的に下落する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはマイナスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた通信や小売が上昇したことはプラスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していたT&Dホールディングス(8795)や富士通(6702)が下落したことはマイナスに寄与しましたが、多めに保有していた住友ゴム工業(5110)や日本電信電話(9432)が上昇したことはプラスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、積極的に投資することで、ベンチマークを上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・ 4ページ～8ページに記載されている「1～4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

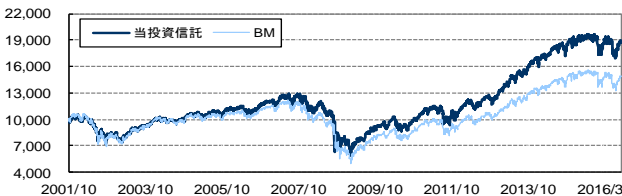
特別勘定の四半期運用レポート (2016年1月～2016年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A)〈適格機関投資家私募〉の運用状況

[2016年3月 末日現在]

■ 当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を10,000として指数化しています。

■ 当投資信託の騰落率

| | 過去1か月 | 過去3か月 | 過去6か月 | 過去1年 | 過去3年 | 設定来 |
|------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|
| 投資信託 | 5.35% | ▲0.72% | 9.27% | ▲1.35% | 36.00% | 90.20% |
| BM | 5.83% | ▲0.92% | 9.09% | ▲1.71% | 30.01% | 49.67% |
| 差 | ▲0.48% | 0.20% | 0.17% | 0.35% | 6.00% | 40.53% |

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、S&P500種株価指数²(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)です。

・ 比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

■ 利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A) 〈適格機関投資家私募〉

【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として米国の企業が発行する株式を対象に投資を行い、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」(バリューストック)を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的にみて、安定的に上回る運用をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※ 当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)に投資します。

■ マザーファンド受益証券の詳細情報

○ セクター別構成比率

| セクター | マザーファンド |
|-----------------|---------|
| 1 ソフトウェア・サービス | 12.74% |
| 2 医薬品・バイオテクノロジー | 10.84% |
| 3 食品・飲料・タバコ | 7.39% |
| 4 小売 | 7.38% |
| 5 資本財 | 6.11% |
| 6 エネルギー | 5.45% |
| 7 テクノロジー・ハードウェア | 4.82% |
| 8 銀行 | 4.15% |
| 9 その他業種 | 40.62% |
| 10 現金等 | 0.51% |
| 合計 | 100.00% |

○ 組入上位10銘柄

| 銘柄 | 国名 | セクター | マザーファンド |
|-----------------------|------|---------------|---------|
| 1 ALPHABET INC-CL A | アメリカ | ソフトウェア・サービス | 2.97% |
| 2 APPLE INC. | アメリカ | テクノロジー・ハードウェア | 2.89% |
| 3 JOHNSON & JOHNSON | アメリカ | 医薬品・バイオテクノロジー | 2.48% |
| 4 MICROSOFT CORP | アメリカ | ソフトウェア・サービス | 1.89% |
| 5 AT&T INC. | アメリカ | 電気通信サービス | 1.73% |
| 6 EXXON MOBIL CORP | アメリカ | エネルギー | 1.72% |
| 7 PFIZER INC. | アメリカ | 医薬品・バイオテクノロジー | 1.72% |
| 8 FACEBOOK INC. | アメリカ | ソフトウェア・サービス | 1.64% |
| 9 THE HOME DEPOT INC. | アメリカ | 小売 | 1.47% |
| 10 INTEL CORP | アメリカ | 半導体・半導体製造装置 | 1.40% |
| 合計 | | | 19.91% |
| 組入銘柄数 | | | 236銘柄 |

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■ 当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比▲0.72%となりました。一方、ベンチマークであるS&P500種株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)の騰落率は、前四半期末比▲0.92%となりました。当四半期の米国株式市場は、配当利回りの高い銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはプラスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、少なめに保有していた電力が上昇したことや多めに保有していた医薬品が下落したことはマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していたエネルギーのMARATHON PETROLEUM CORPや医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンスのPFIZER INC.が下落したことはマイナスに寄与しましたが、多めに保有していた電気通信サービスのAT&T INC.や商業・専門サービスのADT CORPORATIONが上昇したことはプラスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、米国企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・ 4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

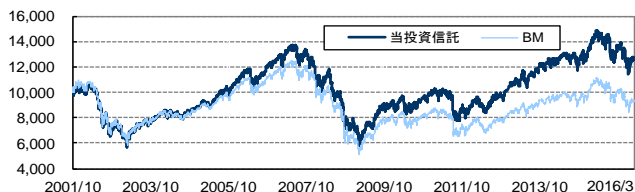
特別勘定の四半期運用レポート (2016年1月～2016年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーク・欧州株式ファンド(A) (適格機関投資家私募)の運用状況

[2016年3月 末日現在]

■ 当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を10,000として指数化しています。

■ 当投資信託の騰落率

| | 過去 1ヵ月 | 過去 3ヵ月 | 過去 6ヵ月 | 過去 1年 | 過去 3年 | 設定来 |
|------|-----------|-----------|-----------|----------|----------|--------|
| 投資信託 | 2.84% | ▲5.55% | 2.67% | ▲11.98% | 17.83% | 27.16% |
| BM | 2.70% | ▲5.80% | 2.12% | ▲13.31% | 9.72% | ▲6.05% |
| 差 | 0.14% | 0.25% | 0.55% | 1.33% | 8.11% | 33.21% |

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCI欧州株価指数³(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)です。

・ 比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

■ マザーファンド受益証券の詳細情報

○ 国別構成比率

| 順位 | 国名 | マザーファンド |
|----|--------|---------|
| 1 | イギリス | 28.70% |
| 2 | フランス | 14.68% |
| 3 | ドイツ | 14.48% |
| 4 | スイス | 12.23% |
| 5 | オランダ | 6.04% |
| 6 | スウェーデン | 4.88% |
| 7 | スペイン | 4.54% |
| 8 | イタリア | 3.62% |
| 9 | その他の国 | 10.09% |
| 10 | 現金等 | 0.75% |
| 合計 | | 100.00% |

○ セクター別構成比率

| 順位 | セクター | マザーファンド |
|----|----------------|---------|
| 1 | 医薬品・バイオテクノ・ライフ | 11.36% |
| 2 | 食品・飲料・タバコ | 10.74% |
| 3 | 資本財 | 9.46% |
| 4 | 銀行 | 8.15% |
| 5 | 素材 | 7.57% |
| 6 | 保険 | 6.67% |
| 7 | 電気通信サービス | 5.08% |
| 8 | エネルギー | 5.06% |
| 9 | その他業種 | 35.16% |
| 10 | 現金等 | 0.75% |
| 合計 | | 100.00% |

○ 組入上位10銘柄

| 順位 | 銘柄 | 国名 | セクター | マザーファンド |
|-------|------------------------------|------|----------------|---------|
| 1 | NESTLE SA | スイス | 食品・飲料・タバコ | 2.87% |
| 2 | NOVARTIS AG | スイス | 医薬品・バイオテクノ・ライフ | 2.42% |
| 3 | HSBC HOLDINGS PLC | イギリス | 銀行 | 2.13% |
| 4 | BRITISH AMERICAN TOBACCO PLC | イギリス | 食品・飲料・タバコ | 2.05% |
| 5 | GLAXOSMITHKLINE PLC | イギリス | 医薬品・バイオテクノ・ライフ | 2.01% |
| 6 | ANHEUSER-BUSCH INBEV NV | ベルギー | 食品・飲料・タバコ | 1.94% |
| 7 | SIEMENS AG | ドイツ | 資本財 | 1.74% |
| 8 | ROCHE HOLDING AG | スイス | 医薬品・バイオテクノ・ライフ | 1.65% |
| 9 | UNILEVER NV | オランダ | 家庭用品・パーソナル用品 | 1.64% |
| 10 | BASF SE | ドイツ | 素材 | 1.62% |
| 合計 | | | | 20.07% |
| 組入銘柄数 | | | | 211銘柄 |

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■ 当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比▲5.55%となりました。一方、ベンチマークであるMSCI欧州株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)の騰落率は前四半期末比▲5.80%となりました。当四半期の欧州株式市場は、配当利回りの高い銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはプラスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、少なめに保有していた石油メジャーが上昇したことや多めに保有していた保険が下落したことはマイナスに寄与しました。国別では下落したイギリスの銘柄を多めに保有していたことがマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた資本財のSIEMENS AG(ドイツ)が上昇したことはプラスに寄与しましたが、多めに保有していた銀行のHSBC HOLDINGS PLC(イギリス)が下落したことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、欧州企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・ 4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

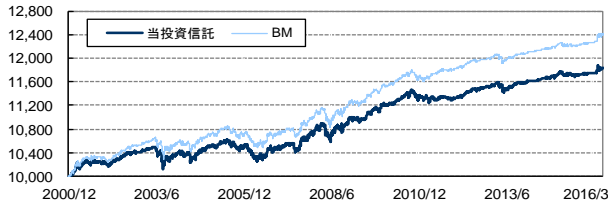
特別勘定の四半期運用レポート (2016年1月～2016年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) (適格機関投資家私募)の運用状況

[2016年3月 末日現在]

■ 当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を10,000として指数化しています。

■ 当投資信託の騰落率

| | 過去1か月 | 過去3か月 | 過去6か月 | 過去1年 | 過去3年 | 設定来 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 投資信託 | ▲0.09% | 0.66% | 0.74% | 0.97% | 2.15% | 18.27% |
| BM | ▲0.17% | 0.90% | 1.09% | 1.49% | 2.73% | 23.84% |
| 差 | 0.08% | ▲0.25% | ▲0.35% | ▲0.52% | ▲0.58% | ▲5.57% |

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、日興債券パフォーマンス・インデックス(総合⁴、中期3年以上7年未満)です。

・ 比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

■ マザーファンド受益証券の詳細情報

○ 資産構成

| | 修正デュレーション | マザーファンド |
|---------|-----------|---------|
| 公社債 | 4.17年 | 98.75% |
| 国債 | 5.18年 | 58.63% |
| 地方債 | 0.00年 | 0.00% |
| 特殊債・財投債 | 0.00年 | 0.00% |
| 金融債 | 0.00年 | 0.00% |
| 社債等 | 2.68年 | 40.12% |
| その他 | 0.00年 | 0.00% |
| 短期資産等* | 0.00年 | 1.25% |
| 合計 | 4.11年 | 100.00% |

* 債券先物を含みます。

※ 「修正デュレーション」とは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。

○ 公社債の格付別構成比率

| 格付区分 | マザーファンド |
|------------|---------|
| AAA | 0.00% |
| AA | 15.16% |
| A | 77.06% |
| BBB | 7.78% |
| BB以下(無格付含) | 0.00% |
| 合計 | 100.00% |

格付基準:

※ 海外格付機関の格付を優先します。

※ 海外格付機関の格付取得の無い発行体は、国内格付機関の格付を採用します。

○ 組入上位10銘柄

| 順位 | 銘柄 | 国名 | クーポン | 償還日 | 格付 | | マザーファンド |
|-------|-------------------------|------|--------|-------------|--------|------|---------|
| | | | | | ムーディーズ | S&P | |
| 1 | 第320回利付国債(10年) | 日本 | 1.000% | 2021年12月20日 | A1 | A+ | 12.05% |
| 2 | 第312回利付国債(10年) | 日本 | 1.200% | 2020年12月20日 | A1 | A+ | 10.09% |
| 3 | 第311回利付国債(10年) | 日本 | 0.800% | 2020年9月20日 | A1 | A+ | 7.44% |
| 4 | 第309回利付国債(10年) | 日本 | 1.100% | 2020年6月20日 | A1 | A+ | 5.94% |
| 5 | 第313回利付国債(10年) | 日本 | 1.300% | 2021年3月20日 | A1 | A+ | 5.81% |
| 6 | 第322回利付国債(10年) | 日本 | 0.900% | 2022年3月20日 | A1 | A+ | 4.80% |
| 7 | 第5回新韓銀行円貸社債(2014) | 韓国 | 0.390% | 2017年11月13日 | Aa3 | A | 4.04% |
| 8 | 第328回利付国債(10年) | 日本 | 0.600% | 2023年3月20日 | A1 | A+ | 3.80% |
| 9 | 第2回スタンダード・チャータード・ビーエルシー | イギリス | 0.453% | 2020年6月5日 | A1 | BBB+ | 3.51% |
| 10 | 第315回利付国債(10年) | 日本 | 1.200% | 2021年6月20日 | A1 | A+ | 2.90% |
| 合計 | | | | | | | 60.39% |
| 組入銘柄数 | | | | | | | 45銘柄 |

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

○ ポートフォリオの状況

| | マザーファンド |
|---------|---------|
| 平均複利利回り | 0.06% |
| 平均クーポン | 0.99% |
| 平均残存期間 | 4.22 |

※ 「複利利回り」とは、個別の債券等を満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。あくまで、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損等を考慮したものではありません。

■ 当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+0.66%、一方、ベンチマークである日興債券パフォーマンス・インデックス(総合、中期3年以上7年未満)は前四半期末比+0.90%となりました。当四半期の当投資信託は前四半期からの戦略を維持しましたが、ベンチマークを下回る結果となりました。世界的な投資家のリスク回避姿勢の強まりに加え、日銀の「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」による需給の引き締めを受け、当四半期末の10年国債利回りは前四半期末比0.320%低下のマイナス0.050%となりました。

委託会社は、日銀の量的金融緩和策を背景にして、日本国債利回りはマイナス圏で推移すると予想しています。今後の当投資信託の方針として、デュレーション戦略ではベンチマーク対比短めとし、種別戦略ではベンチマーク対比での国債の少なめの配分と非国債の多めの配分を維持する方針です。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・ 4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

用語説明

- *1 「東証株価指数(TOPIX)」とは、東京証券取引所第一部に上場する国内株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。
東証株価指数(TOPIX)は、株式会社東京証券取引所(以下株東京証券取引所)の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は株東京証券取引所が有しています。
株東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
- *2 「S&P500種株価指数」とは、スタンダード&プアーズ社が公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されています。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はスタンダード&プアーズ社に帰属しています。S&P500種株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、S&P500種株価指数(米ドルベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整した上で円ベースに評価したものです。
- *3 「MSCI欧州株価指数」とは、MSCI Inc. の算出する欧州株式市場の動きを示す指数です。MSCI欧州株価指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。
また、MSCI Inc. は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI欧州株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、MSCI欧州株価指数(現地通貨ベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整した上で円ベースに評価したものです。
- *4 「日興債券パフォーマンス・インデックス(総合)」とは、日興フィナンシャル・インテリジェンス株式会社が発表している、日本の債券市場の動きを表す指数です。国債、地方債、政府保証債、財投機関債、金融債、事業債などの円建て公募利付債で構成されています。対象となる債券は残存年数1年以上、残存額面10億円以上で、格付機関からBBB格相当以上の格付を取得している発行体に限られます。
同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はSMBC日興証券株式会社に帰属します。また、SMBC日興証券株式会社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

注意事項

○変額保険の仕組み

変額保険とは、保険金額が「特別勘定」の資産運用実績にもとづいて変動する生命保険です。

*特別勘定とは、変額保険にかかわる資産の管理・運用を行うもので、他の保険種類にかかわる資産とは区分し、独立して管理・運用を行います。

○変額保険のリスクについて

①市場リスク

特別勘定の資産運用には、株価の低下や為替の変動等による投資リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる保険金額(有期型の場合、満期保険金を含む)や解約払いもどし金額の合計額が、払い込まれた保険料の合計額を下回る可能性があります。なお運用実績にかかわらず、死亡・高度障害時保険金は保証されています。

②信用リスク

万一、引受生命保険会社が経営破綻に陥った場合、ご契約時にお約束した給付金等の金額が削減されることがあります。その場合、生命保険契約者保護機構により、保険契約者保護の措置が図られることがありますが、この場合にも、ご契約時の給付金等の金額が削減されることがあります。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>